

【臨床・研究】

医療と介護保険事業所の連携強化による 退院後の日常生活動作の向上効果

た の しゅん べい 小 むら かず み いた がき よう すけ
 田 野 俊 平¹⁾ 小 村 和 美¹⁾ 板 垣 陽 介²⁾
 はま さき たか ひと あお やま ぜん いち こ まつ しょう へい³⁾
 濱 崎 貴 仁³⁾ 青 山 善 一³⁾ 小 松 章 平³⁾

キーワード：回復期リハビリテーション病棟，地域包括ケア病床，医療介護連携，自宅退院

要 旨

医療法人財団公仁会鹿島病院（以下鹿島病院）は病院機能と介護保険在宅サービス事業部門を有している。鹿島病院と介護保険在宅サービス事業部門の連携をより強化して，入院から退院後までの在宅生活のサポートができる機能を整備した。退院患者の身体能力の維持と向上に効果が得られたので報告する。

1. はじめに

鹿島病院は回復期リハビリテーション病棟57床（以下：回りハ），地域包括ケア病床31床（以下：地ケア），療養病床29床，特殊疾患病棟60床を有する地域の慢性期医療を担う病院である。

鹿島病院の平均年齢は回りハ83歳，地ケア85.3歳。介護保険認定率は回りハが73%，地ケアが99%（令和2年4月～12月 n=322）で，後期高齢者で介護を必要とする患者が大半を占めている。回りハと地ケアでは日常生活動作（Activities of daily living：以下 ADL）が低下した患者が残さ

れた身体機能で出来るだけ患者と家族の希望に沿うような状況に回復して退院できるように努めている。そのなかで鹿島病院が併設している介護保険在宅サービス事業部門（訪問看護ステーション，通所リハビリテーション，訪問リハビリテーション，居宅支援事業所）の果たす役割は大きい。令和2年度より鹿島病院と介護保険在宅サービス事業部門（以下在宅サービス部）は患者の生活機能を重視して在宅生活が円滑に営まれるように従来の連携に加え退院後の ADL の向上を目指した取組をおこなった。それにより利用者の獲得機能的自立度評価法（Functional Independence Measure：以下 FIM）で効果が得られたので報告する。

2. 方 法

(1) 退院後の生活機能向上にむけての目標意識

Shunpei TANO et al.

1) 医療法人財団公仁会鹿島病院

2) 同 通所リハビリテーションやまゆり

3) 同 やまゆり居宅介護支援事業所

連絡先：〒690-0803 松江市鹿島町名分243-1

医療法人財団公仁会鹿島病院